

平成 19 年 1 月 1 日

	<h1>まねん</h1>	KKR 広島記念病院広報誌
		第 11 号
		発行所 〒730-0802 広島市中区本川町1-4-3 国家公務員共済組合連合会 広島記念病院 ☎(082)292-1271

<http://www.kkrhiroshimakinen-hp.org>

## 年頭所感

平成 19 年 1 月 1 日  
広島記念病院長  
中井 志郎

### 「2007 年の新年を迎えて」



新年明けまして、おめでとうございます。今年が、皆様方の輝かしき年になりますよう祈念しつつ新春のお慶びを申し上げます。

去年は秋篠宮様に、悠仁親王がご誕生され誠に慶賀至極に存じ上げます。

今年は干支の「丁亥」にあたり、十二支の「亥」は、核で万物が次代の種となることとなっています。即ち、陰気が極まり、草木は枯れて核となり、再び陽気の生じるを待つ状態をさしています。

昨年の国会で可決した医療制度改革の中で、平成 19 年 4 月より、新しい地域医療計画の策定が各都道府県で検討され、平成 20 年 4 月よりスタートすることになっています。その内容は、4 疾患（癌、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病）と 5 事業（小児医療、周産期医療、救急医療、災害医療、へき地医療）ごとの連携体制を明確にすることです。4 疾患、5 事業毎に①救急機能、②回復機能、③療養機能に分類して県民に公表することです。

広島記念病院は、従来から重点化してきた消化器病疾患、特にがん治療に対する急性期病院機能をメインテーマとします。

- 1) がん支援病院（がん診療拠点病院）
- 2) 地域支援病院を目標として

より一層の病院機能の充実と社会貢献のために

- ① 外来化学療法の充実
- ② 病診連携パスの作成
- ③ がん患者への情報提供（医療統計の充実）を積極的に

活動していく必要があります。

その事によって、医療機能の分化と連携の一層の推進、進化をすることです。患者さんにとって「癒される病院」、職員にとっての「誇れる職場」作りを目指して地域に信頼される病院を目指して精進を重ねております。

また、1月1日より麻酔科医長として名草芳亮先生を迎えることが出来ました。術中、術後の呼吸循環管理の一層の質の向上をお願いしております。

本年も、明日の医療を充実させるために尽力していく所存ですので、引き続き、ご指導ご鞭撻を宜しくお願いいたします。

## 新人医師紹介



麻酔科 名草芳亮 (なぐさ よしあき)  
資格 日本麻酔科学会指導医

平成7年、山口大学麻酔科に入局以来、山口・岡山の病院で勤務しておりました。この度、出身地の広島に帰り、縁あって広島記念病院に赴任することになりました。

麻酔や集中治療、疼痛管理等に尽力していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

## C型慢性肝炎に対するインターフェロン治療

広島記念病院 内科  
荒滝桂子

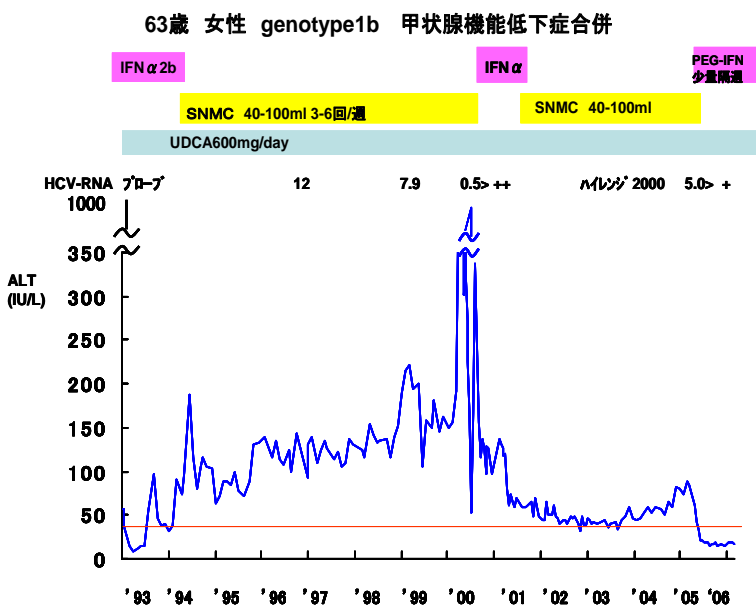


C型慢性肝炎に対するインターフェロン (IFN) の標準的治療が示され、現在では難治例 (1型高ウイルス量) でも2人に1人が治る時代となりました。しかし、その一方で、患者の高齢化や合併症のために標準的治療が困難な症例も決して少なくありません。

私が2006年9月まで勤務していた呉では肝臓専門医数人でこれらの症例に対し独自の治療法の共同研究をしていましたのでここに紹介します。

そのひとつとして、ペグインターフェロン $\alpha$ 2a (ペガシス) 90  $\mu$ g (標準的投与量の半量) の隔週投与 (通常は週1回) です。主にグリチルリチン製剤 (強力ネオミノファ

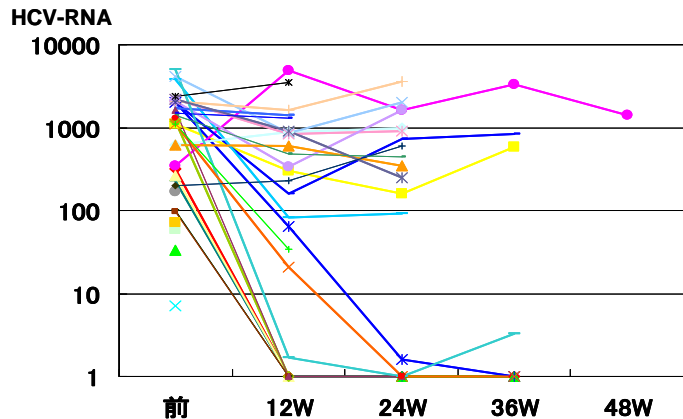
ーゲン C) で効果不十分な症例を対象に、ALT 正常化を目指して始めました。症例を次に示します。



過去に 2 回 IFN 治療歴がありますが効果がなく、強ミノ C 3A から 5A を連日注射でも ALT(GPT)は 80 前後でした。ところが 2 週間に 1 回少量のペガシス投与で ALT は速やかに正常化、ウイルス量も感度以下となりました。何よりもこの患者さまが喜ばれたのは、約 20 年間雨の日も風の日も連日注射のために通院しても低下しなかった ALT が、2 週間に 1 度の通院で ALT が正常化し、さらに IFN の自覚的副作用も全くなく過ごすことができていることです。一度は試してみる価値のある治療ではないかと思えます。この症例からウイルス学的効果も期待できることがわかり、これまで治療を開始した 47 例 (男 21 例、女 26 例、年齢 45~79 歳) のうち治療開始後 12 週以上経過した 42 例のデータをまとめると、ALT 改善率 62.1%、正常化率 29.7%、1 型高ウイルス量症例以外のウイルス陰性化率は 62.5%でした。ウイルス学的効果までは期待していなかった治療ですが、ウイルス量が著明に減少する症例があることがわかりました (図 1)。

また、もうひとつの治療法としては、ペグインターフェロン  $\alpha$  2b (ペグイントロン) とリバビリン (レベトール) 併用療法です。この治療も標準的治療では最初に述べましたとおり、難治例でも非常に効果が高いのですが、減量を余儀なくされるケースも多いのが事実です。そこで、最初から少量のペグイントロンとレベトールで開始するというものです。この治療に関してはまだ症例数が少なく、データをお示しできませんが、ウイルスが陰性化するケースもあるようです。

図1 ウイルス量の推移



いずれの治療法も IFN の自覚的副作用はほとんどなく、効果が出れば、週に数回の強ミノ C 注射通院から解放されるわけですから (特に血管確保が困難な方にとっては吉報!)、患者さまの QOL はぐっと高まると思います。

2006 年 10 月当院に赴任後も標準的治療が困難な高齢者や血小板数、Hb 低値の方にはこの治療を新規に開始し、すでに効果が現れている方もいらっしゃいます。標準的治療が難なくできる患者さまはいうまでもありませんが、標準的治療が困難と思われる 65 歳以上や血小板数が少なめの方でもご本人に治療の意欲がある場合は一度ご紹介いただければ幸いです。

# 診療録管理だより

診療録管理係では 疾病は ICD-10(※)でコード分類しています。また、平成 18 年からデータ集計を年度集計から年集計へ移行しましたので集計結果の一部を紹介します。

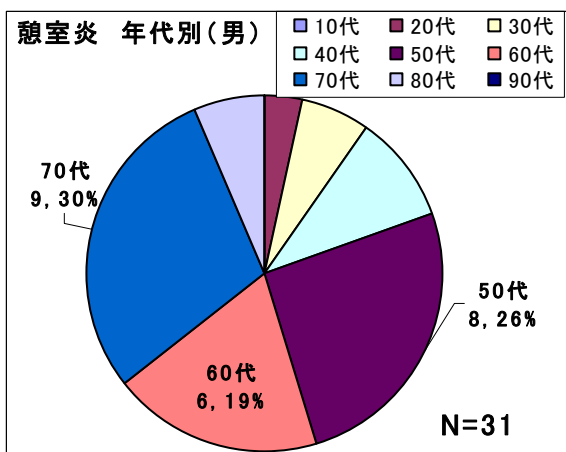
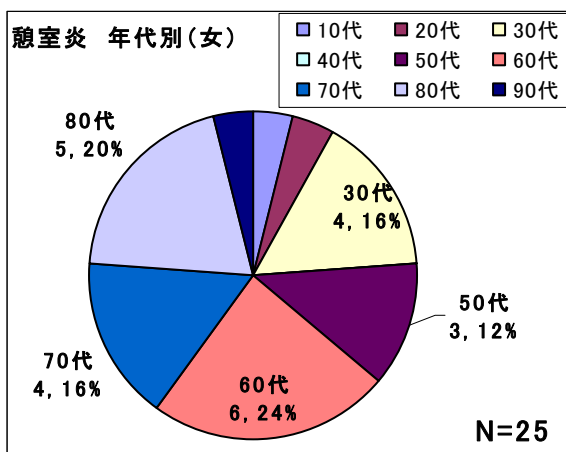
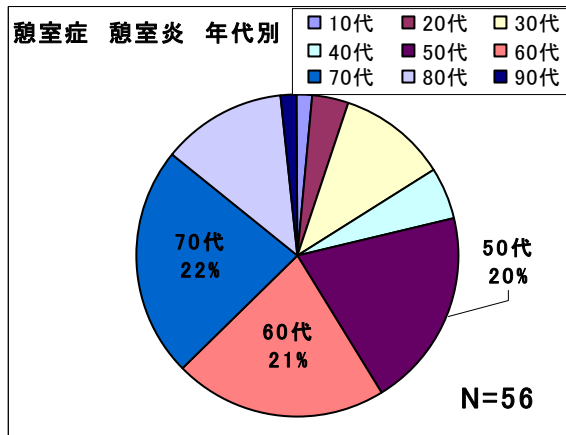
憩室症 憩室炎(※)は(K571~K579)に分類されます。

(平成 18 年 1 月~平成 18 年 10 月)

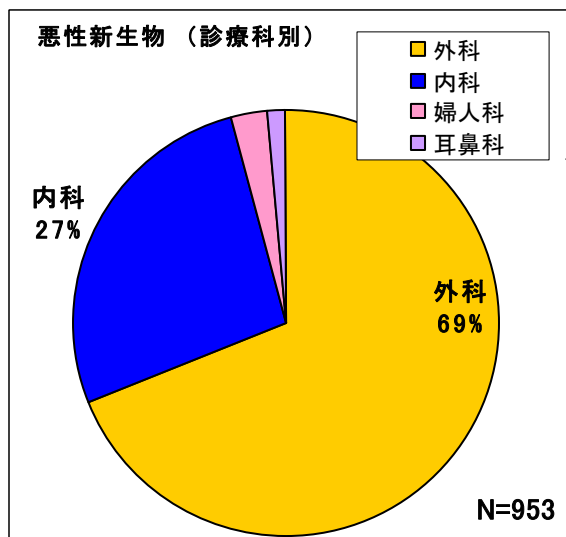
	患者数	平均在院日数
外科	26	13.38
内科	30	12.33
全体	56	12.86

憩室症 憩室炎(K57)を年代別に比較すると 50~70 代で 63%を占めています。

男女における年齢構成比では女性では 30 代が 16%をしめるという違いがあります。



悪性新生物はCコードで表示されます。胃癌はC160~169 まで部位別に分類されます。原発性肝癌はC220 ですが、転移性肝癌はC787 と分類が異なります。

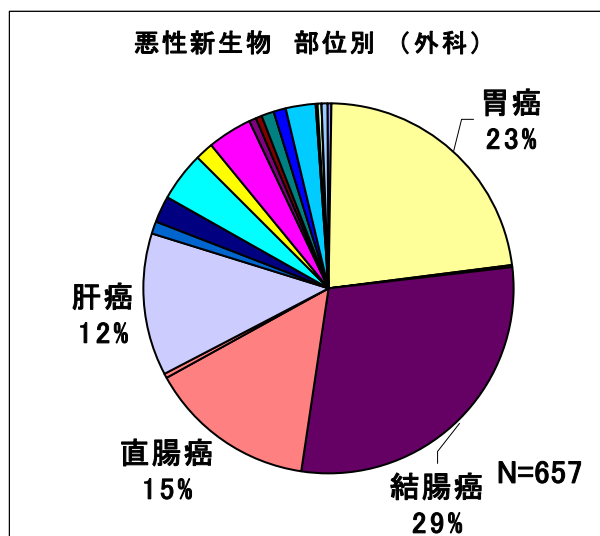
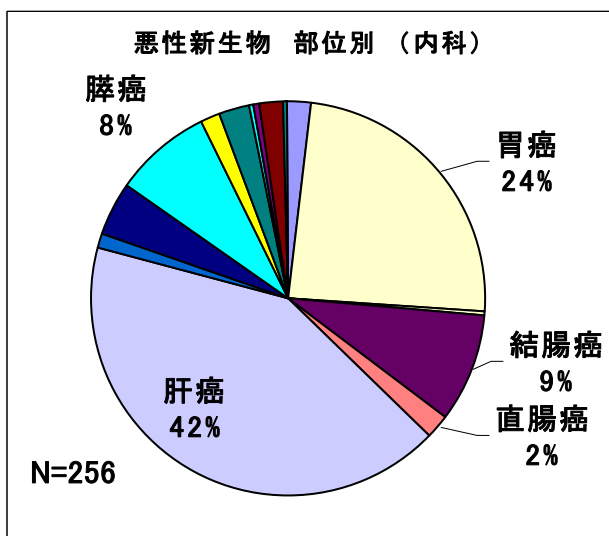


1 月~10 月までの退院患者数は 4038 名でその中で 953 名が悪性新生物の病名で診療を受けています。中でも外科が 69%を占めています。

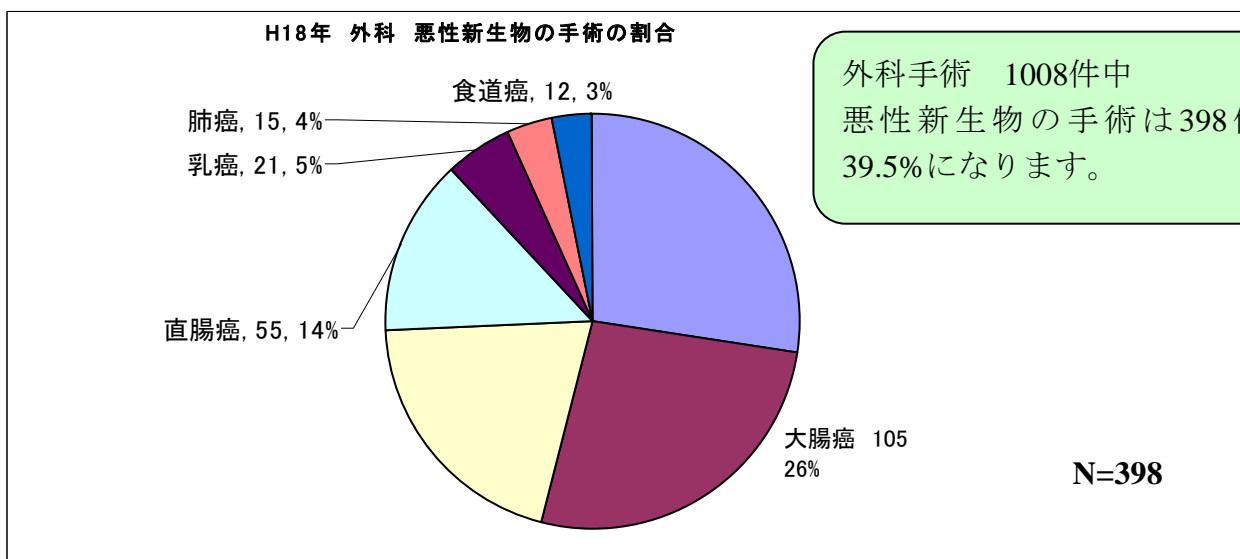
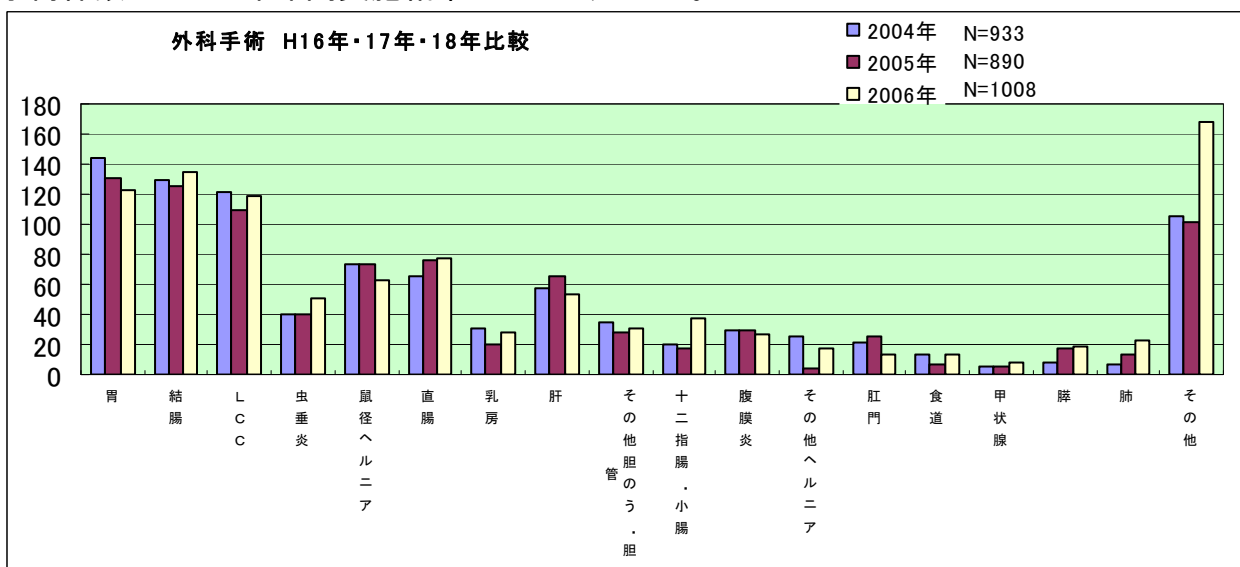
平均在院日数(全体)	14.62日
外科	29.66日
内科	20.40日

当院の平均在院日数 14.62 日と比べ悪性新生物の治療での入院期間は外科で倍の 30 日弱、内科で約 20 日かかっています。

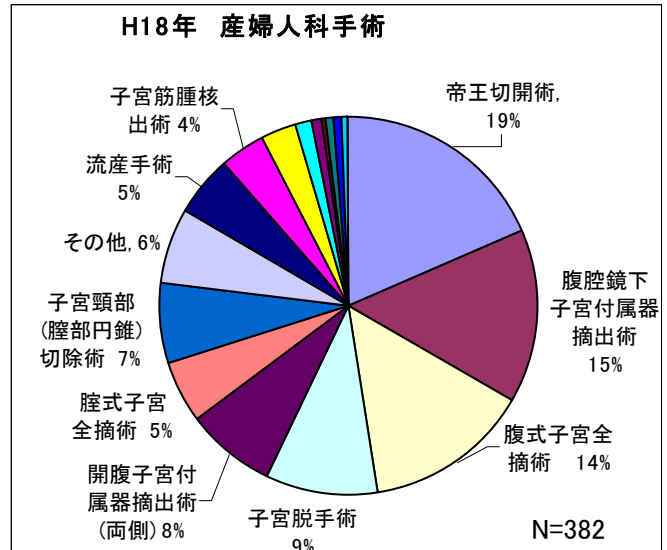
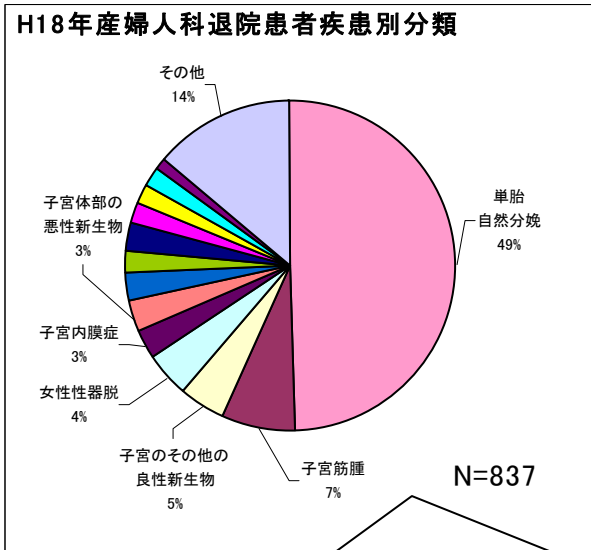
外科では結腸癌・胃癌・直腸癌の順に患者数が多いのですが、内科では肝癌・胃癌の順になっています。



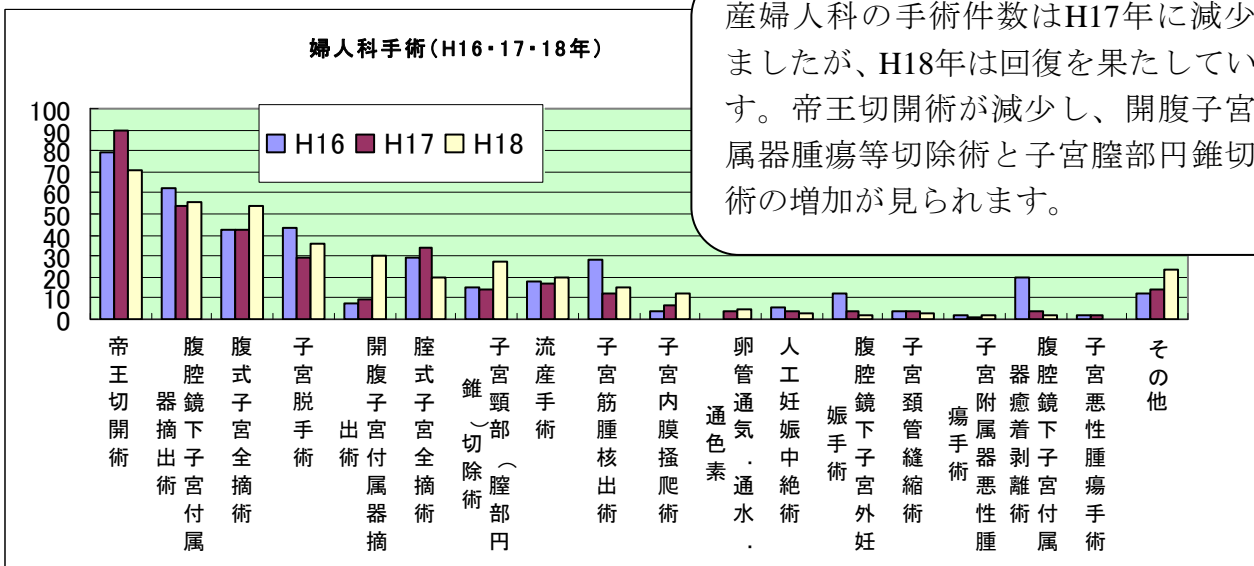
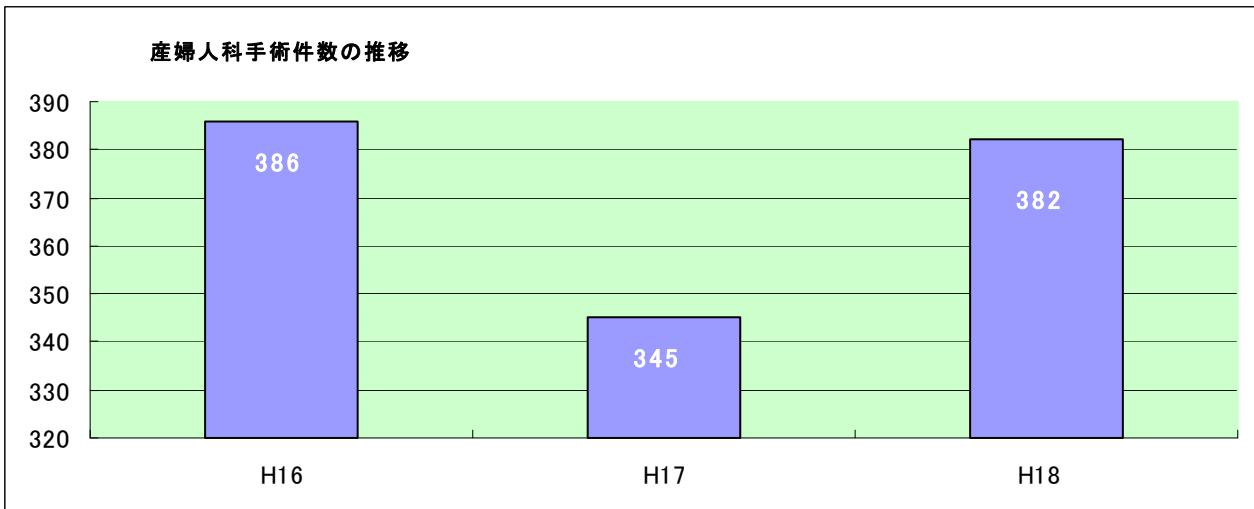
手術件数は H18 年年間実施結果がまとまりました。



産婦人科データも1月～12月までの1年間です。



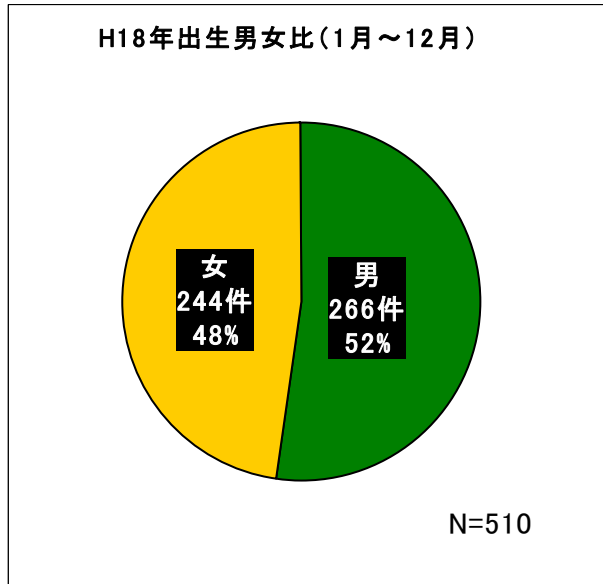
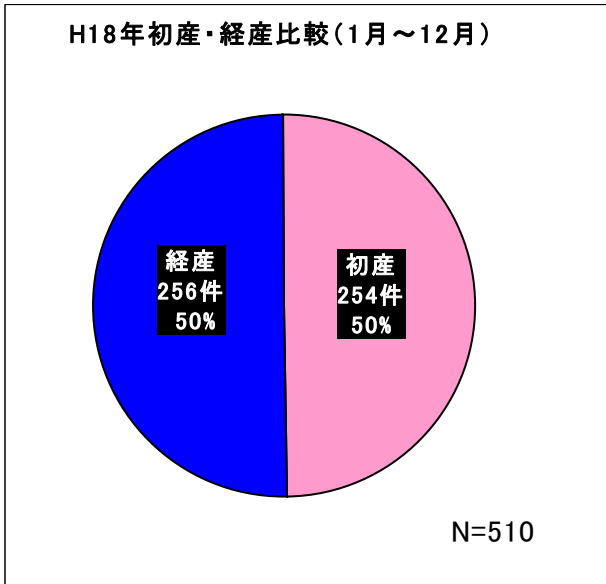
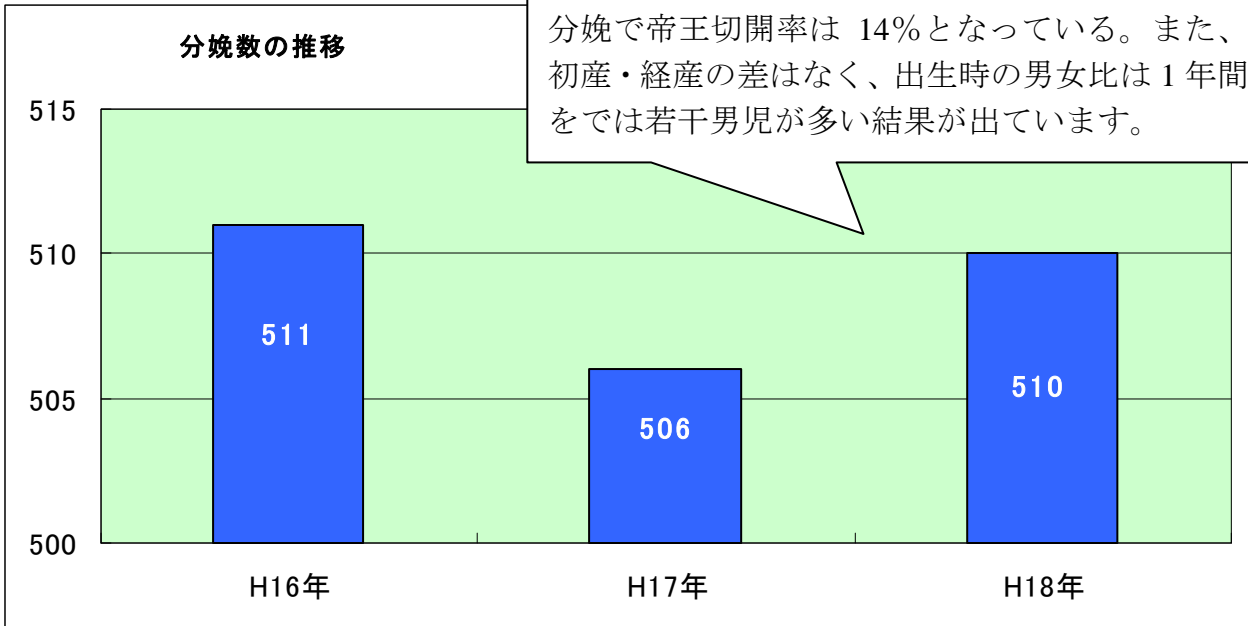
産婦人科の退院患者 837件の約半数は 自然分娩のための患者です。そして、45.4%の382件は何らかの手術を受けています。この中には 帝王切開術 (71件) も含まれています。



産婦人科の手術件数はH17年に減少しましたが、H18年は回復を果たしています。帝王切開術が減少し、開腹子宮付属器腫瘍等切除術と子宮腔部円錐切除術の増加が見られます。



分娩数は平均月 43 件で、510 件中 439 件が経膈分娩で帝王切開率は 14%となっている。また、初産・経産の差はなく、出生時の男女比は 1 年間にでは若干男児が多い結果が出ています。



※

ICD-10 : 世界保健機構(WHO)の設定した、国際疾病分類。

様々な病気を分類するための分類表。

その最新版が、1990年の第43回世界保健総会において採択されたICD-10です。

憩室炎 : 憩室とは大腸の壁の弱いところにある袋のことをいいます。

S状結腸や左側結腸に多く出来ます。

憩室炎は憩室が炎症を起こしたり、穿孔が起こった状態のことをいいます。

## 広島記念病院の「理念」「憲章」「患者様の権利の尊重」について

病院のこころ、職員の姿勢を伝えることを意とし、平成10年6月病院建替え完成と同時に、下記の「理念」「憲章」「患者様の権利の尊重」を制定いたしました。患者の皆様やその関係者の方々等広くお知らせするため、病院玄関より各階すべてに掲示しております。日々の仕事のなかで実現できるよう努力しております。

### 理 念

患者の皆様が、安心して受診できる、やすらぎの環境及び満足と信頼が得られる最良の医療サービスを提供する。

### 憲 章

1. 私達は、「癒しの心」を医療の心として職務に専念します。
2. 私達は、患者様の人権と意思を最大限に尊重し、納得と同意に基づいた全人的医療を目指します。
3. 私達は、日々自己研鑽に励み、良質で温もりのある、地域に密着した医療を心がけます。
4. 私達は、地域医療体系に参加し各々の持てる機能の連携により、より合理的で効率的な良質の医療に努めます。

### 患者様の権利の尊重

- ◆ 患者様の人間としての尊厳を尊重し秘密を守ります。
- ◆ インフォームドコンセント（良く納得された上での合意）を基盤とし、信頼関係を確立します。
- ◆ 各科の有機的な連携を図り、高次で専門的な総合医療を行います。
- ◆ 癒しの心を持った、接遇、ケアを行います。
- ◆ 癒しの心を持った、入院環境、アメニティーの整備を心がけます。

#### 病診連携室（医事課）

TEL 082 (503) 1003

FAX 082 (503) 1010

#### 代表 広島記念病院

TEL 082 (292) 1271

FAX 082 (292) 8175

#### 庶務課

TEL 082 (503) 1001

#### 内科・外科

FAX 082 (503) 0722

#### 産婦人科・小児科

FAX 082 (503) 0723

#### 耳鼻科・皮膚科・泌尿器科

FAX 082 (503) 0731

#### 4病棟

FAX 082 (503) 1014

#### 5病棟

FAX 082 (503) 1015

#### 6病棟

FAX 082 (503) 1016

#### 7病棟

FAX 082 (503) 1017

#### 8病棟

FAX 082 (503) 1018